

IT Topics & News

「企業IT動向調査2021」 第2回緊急実態調査結果と IT予算速報値を発表【JUAS】

2020年11月25日、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（略称=JUAS）は、「企業IT動向調査2021」（2020年度調査）における、第2回緊急実態調査の結果を発表した。

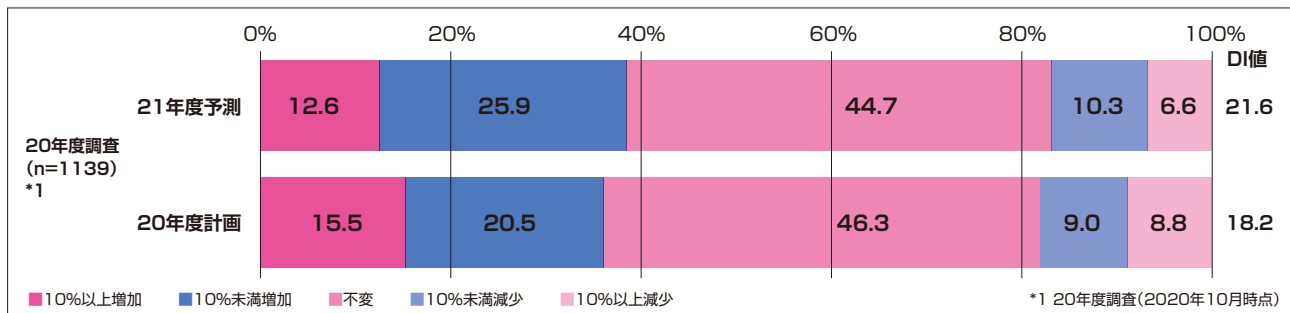
「第2回緊急実態調査」は、JUASが例年実施している企業IT動向調査に加え、10月に、「ニューノーマル」時代における企業IT動向をスピーディーに調査したもの。調査結果によると、「保守・運用、システムの動向」では、社外から本番環境へアクセスする仕組みは、在宅勤務への対応が進み、約8割の企業で実施済みで、「システム開発生産性」は、新型コロナ以前と比較して「大きく変わらない」が7割強、「低下した」は2割に留まり、新型コロナの影響は限定的だったと見られる。また、「DX

とデータ活用状況」については、中長期的には7割強の企業が加速する結果となった。テレワークにおける「セキュリティ対策」では、6月の第1回調査に対して、「ゼロトラストセキュリティで今後対応を行う」が5.1ポイント増加し、31.9ポイントとなった。

またJUASは2021年1月12日、「企業IT動向調査2021」IT予算の速報値を発表。同調査は、ITユーザー企業のIT動向を把握することを目的に、1994年度から継続して実施している調査。調査対象は、東証上場企業とそれに準じる企業の4,508社で、そのうち、「IT予算」については1,146社から回答を得た。

2020年度の企業業績は新型コロナ禍により、大幅に下降傾向が見られるものの、一方で2021年度予測のユーザー各社のIT予算は、全体としては増加基調を維持している（図1）。2021年度の予測は全体の38.5%が「増加」、44.7%が「不変」、16.9%が「減少」と回答があっ

（図1）2021年度IT予算の増減



出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

次の時代に、新しい風を吹き込んでいきます。

時代はいま、新しい息吹を求めて、大きく動きはじめています。

今日を生きる人々がいつも元気でいられるように、

明日を生きる人々がいつもいきいきとしていられるように。

日立グループは、人に、社会に、次の時代に新しい風を吹き込み、

豊かな暮らしとよりよい社会の実現をめざします。

HITACHI
Inspire the Next

日立の樹オンライン www.hitachinoki.net

株式会社 日立製作所 〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 電話(03)3258-1111(大代)

た。IT予算を「増やす」割合から「減らす」割合を差し引いて求めたDI（ディフュージョン・インデックス）値は21.6ポイントとなり、2020年度計画（2020年調査時／18.2ポイント）と比較して3.4ポイント伸びている。

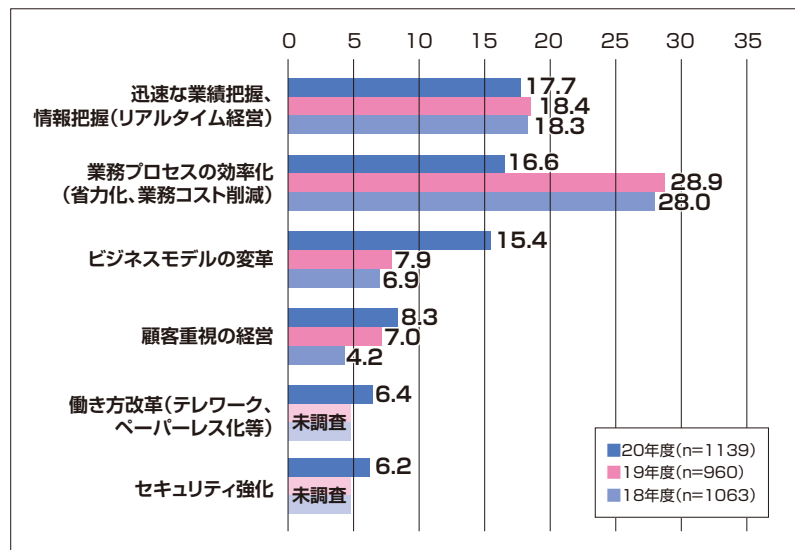
全体としてDI値が高い水準に維持されるのは、「デジタル化に向けた対応」と「基幹システムの刷新」が新型コロナ禍によらず粛々と進められていることに加え、「コロナ影響による基盤整備」による予算増も大きな要因となっている。今後も増加・維持の傾向は続き、IT投資は堅調であると予想される。

「IT投資で解決したい中期的な経営課題」については、JUASがあらかじめ用意した15個の選択肢の中から優先度の高いものを1位から3位まで回答している。そのうち、1位の回答の上位6位を図に示した（図2）。最も優先度が高い経営課題は「迅速な業績把握、情報把握（リアルタイム経営）」で、過去2年間1位だった「業務プロセスの効率化（省力化、業務コスト削減）」と順位が入れ替わった。次いで「ビジネスモデルの変革」「顧客重視の経営」と続いた。経年でみると「業務プロセスの効率化」が大幅に低下し、「ビジネスモデルの変革」が大きく伸びていることから、新型コロナ禍の影響を受けて各企業経営層における課題意識の変化が起きているよ

うに見える。今回から聴取をしている「働き方改革（テレワーク、ペーパーレス化等）」や「セキュリティ強化」についても多く挙がり、1位～3位の合計では「顧客重視の経営」を抜く結果となった。いずれも中長期的な目線でも関心度の高さがうかがえる。

これらの結果は「速報値」として公開されたものだが、正式なデータや分析結果については、ダイジェスト版と詳細な分析結果を掲載したダウンロード版が、JUASのWebサイト（<https://juas.or.jp/>）にて、2021年4月に公開予定となっている。

（図2）IT投資で解決したい中期的な経営課題の経年変化



出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

TOSHIBA

ひとりひとりの暮らしを支えるAIを。

いつの時代も東芝は、技術によって未来を切り拓いてきました。

これまでにないものを生み出そうという創業からの想いは、今も変わりません。

かつて日本初の白熱電球を生み出し、人々の生活に明かりを灯したように。

それぞれの現場で確かな仕事をする、東芝ならではのAIを、これからも。

*1890年に東芝の前身「白熱舎」が日本で初めての白熱電球を製造

人を見つめ、ビジネスを見つめ、AIを最適なソリューションに。東芝のAI

東芝デジタルソリューションズ株式会社

www.toshiba-sol.co.jp